

英文学から何を学ぶか—— ディケンズ『荒涼館』を一例に

講演者： 高橋 和久 氏

(東京大学大学院人文社会系研究科 教授)

英文学者、翻訳家

⊕主要著書

『エトリックの羊飼い、或いは、羊飼いのレトリック』(研究社、2004年)

⊕主要訳書

J・ホッグ『悪の誘惑』(国書刊行会、1980年)

E・M・フォースター『果てしなき旅』

(岩波文庫、1995年)

マイケル・カニンガム『めぐりあう時間たち
三人のダロウェイ夫人』(集英社、2003年)

ジョージ・オーウェル『1984年』(ハヤカワ
文庫epi、2009年)

➤日時：2013年12月14日(土)

16:00～17:30

➤場所：14号館101教室

➤司会：大島一彦先生(早稲田大学
文学学術院教授)